



ThreeBond



2022

JAPANESE SUPER FORMULA CHAMPIONSHIP SERIES

ROUND.9/10

RACE REPORT



SUZUKA CIRCUIT



2022 シーズン ラストパフォーマンス

2022 年度全日本スーパーフォーミュラ選手権シリーズ最終大会（第 9 戦および第 10 戦）が、10 月 29 日（土）～30 日（日）にかけて三重県の鈴鹿サーキットで開催された。前大会から約 2 ヶ月のインターバルに、チームは改めてセッティングを追求し車両をまとめて鈴鹿へ持ち込んだ。前大会同様、1 大会に 2 レースが開催されることを受けて、28 日（金）の午後 1 時間 30 分のフリー走行セッションが設けられた。ここでは同じ鈴鹿サーキットで開催されたシリーズ第 3 戦と比較して操縦性の向上が見られ、福住仁嶺選手（以下、福住選手）は出走 21 台中、トップから 0 秒 710 後れの 8 番手タイムを記録してセッションを終えた。しかしトップスピードが逆に低下してしまう傾向が見られ、チームは公式予選に向けてセッティングの微調整を行った。

【第9戦】

公式予選

一夜明けた 29 日（土）の鈴鹿サーキットは朝から快晴に恵まれ、強めの風が最終コーナーから第 1 コーナーへ向けて吹くコンディションとなった。福住選手は前日のフリー走行で快調だったセッティングに微調整を加えた車両に乗り込み、午前 9 時 30 分から 10 分間の公式予選 Q1B 組に出走した。タイヤを慎重にウォームアップし、タイムアタックを行い 11 台中 5 番手に食い込む 1 分 37 秒 213 を記録、Q2 進出を果たした。午前 9 時 50 分から 7 分間の Q2 セッションには 12 台の車両が出走した。Q1 セッションよりも路面コンディションが好転し各車タイムアップ。福住選手もトップから 0 秒 883 後れの 1 分 36 秒 903 を記録したが、ラップタイムの伸び幅は他車に対してわずかに小さい。最終的にはフリー走行での順位より 2 ポジション後退した 10 番手のスターティンググリッドから第 9 戦決勝レースに臨むことが決まった。

決勝レース

午前の公式予選から 4 時間半のインターバルを挟み、午後 2 時 30 分に決勝レースが始まった。ホームストレートでは午前中よりも強い追い風が吹くコンディションとなった。スタートの瞬間、10 番手ポジションの福住選手は加速が鈍く、後方アウト側から平川亮選手のオーバーテイクを許して 11 番手で第 1 コーナーへ進入、さらに後方から追いついてきた阪口晴南選手と S 字コーナーで並走状態になると、逆バンク前でオーバーテイクを許し 12 番手でオープニングラップを終えた。その後、福住選手のペースは上がらず、徐々に前走車から引き離されながら 12 番手を守って周回しタイヤ交換のタイミングを探った。しかしペースが上がらないことも考慮して、レース後半にセーフティーカーなどが入ったときに消耗の少ないタイヤで逆襲する戦略を選び、14 周までタイヤ交換を遅らせた。タイヤ交換後 15 周目にコースに復帰した福住選手は追い上げにかかったが、交換したタイヤのウォームアップに予想以上の時間がかかり逆にポジションを落とすことになってしまった。結局、期待したセーフティーカーもレースに介入することではなく、また想定した以上にリヤタイヤの消耗が進み、思ったようなペースアップもできなかった。結局、福住選手はトップから 44 秒 485 後れの 15 位でレースを終えることになった。

＜第9戦＞予選結果

順位	ゼッケン/氏名 タイム
1	#1 野尻 智紀 1'36.020
2	#37 宮田 莉朋 1'36.262
3	#65 大湯 都史樹 1'36.336
10	#12 福住 仁嶺 1'36.903



【第10戦】

公式予選

30日(日)の鈴鹿サーキット上空には、薄い雲が流れたが晴天に恵まれた。第10戦に向け、チームは第9戦でトップスピードが伸びなかった原因を分析し、トップスピードを伸ばす方向でセッティングの方向性を見直して公式予選に臨んだ。福住選手は、午前9時5分から10分間の公式予選Q1A組に出走した。セッティングを変更した車両のトップスピードは狙い通り第9戦よりも向上したが、反面S字コーナーでのアンダーステア傾向が生じ、ラップタイムは前日に行われた第9戦の公式予選より悪い1分37秒626に留まり、Q1A組9番手となってQ2進出はならなかった。この結果、福住選手のスターティンググリッドは18番手と決まった。チームは予選セッティングの延長で決勝セッティングを決めた第9戦とは考え方を変え、予選でのセッティングと決勝に向けたセッティングを切り分け、トップスピードを残しながらロングランした際にリヤタイヤが消耗する傾向を打ち消す方向での決勝セッティングを盛り込んだクルマを仕上げ、決勝レースに備えた。

決勝レース

30日(日)午後2時30分、2022年シーズンを締めくくるシリーズ第10戦JAF鈴鹿グランプリの決勝レースが行われた。チームは予選から大幅に方向性を変えたセッティングを施した車両を福住選手に託した。福住選手は、スタート直前に8分間行われるウォームアップ走行でセッティングを確かめ、決勝向けセッティングに手応えを感じ、スターティンググリッド上での微調整も行うことなく決勝に臨むことを決めた。午前中に流れていた薄い雲は消え、快晴の空の下でスタートが切られた。18番手グリッドからスタートした福住選手は鋭い加速から前方にいた松下信治選手、阪口晴南選手をオーバーテイクし16番手からさらに順位を上げる勢いでアウト側から第1コーナーに進入した。これまでスタートでのクラッチミートには慢性的な課題があったが、福住選手はスタート練習を繰り返し、理想的なクラッチミートポイントを地道に探ってきた。その努力が実を結んだスタートダッシュだった。しかしあまりにも加速が良かったためか、第1コーナーへ向けてオーバースピード気味となってラインが膨らみ、福住選手は外側の縁石に乗って姿勢を崩すとそのままコースアウト、スポンジバリアに突入して走行不能になってレースを終えてしまった。結局、今シーズン福住選手の最上位はシリーズ第5戦スポーツランドSUGO戦での8位入賞で、シリーズランキングは19位でシーズンを終えた。

<第10戦>予選結果

順位	ゼッケン/氏名 タイム
1	#65 大湯 都史樹 1'30.313
2	#4 サッシャ・フェネストラズ 1'30.462
3	#1 野尻 智紀 1'30.497
13	#12 福住 仁嶺 1'31.074



ドライバー 福住 仁嶺 コメント

第9戦の予選は、今まで鈴鹿を走ってきた中では一番フィーリングが良くてQ2に進めましたが、Q2では周囲ほどタイムを上げられず10番手で終わりました。第9戦のスタートは蹴り出しが良くなって順位を落としました。その後もペースが上がらず、非常に悔しい結果で終わりました。一方で、第10戦のスタートはますます、勢いに乗ってもっと前にいきたいという気持ちが出過ぎてしまって、外側から大きくマクって行こうとしたら縁石に触れてしまい、クルマがバタついてハイサイドを喰らってそのまま外へ向いてしまい、リタイアする結果になってしまいました。全て自分のミスですので落ち込んでいます。チームには本当に申し訳ない気持ちでいっぱいです。いろいろ噛み合わないままシーズンを終えましたが、良い方向が見えてきたように感じています。



監督 道上 龍 コメント

最終戦は、良いスタートだっただけに、頑張り過ぎて1コーナーで終わってしまったのは残念です。第9戦の決勝で良くなかったところを踏まえてクルマのセッティングを大きく変更したら、予選はあまり良くなかったのですが、決勝に向けてスターティンググリッドで福住選手に「どうだ?」と聞いたら、一言「これで行きます」と言ってくれました。本人も多少なりとも手応えを感じてくれたのかなと思います。実際レースでどんな走りになるのかなと思っていたのですが、1コーナーで飛び出してしまって…。福住選手らしからぬミスだったと思います。ただ、人間が操って走るものですから、こういうことはあります。今年は1年通して1回しかポイントを獲得することができなかったということを考えると、あまり良くないシーズンでしたが、今後シーズンオフテストもあるので、レースウィークにできなかったことを試すつもりでいます。来年クルマが大きく変わりますが、基本的には空力と車体の足回りの総合的なバランスのスイートスポットを見つけないと早く走れないクルマには変わりがないので、そのベースになるようなバランスをなんとか見つけ出そうと思っています。



チーフエンジニア 伊与木 仁 コメント

インターバルが長かったのでいろいろ考えてクルマを纏めて持ち込みました。最初のフリー走行と予選に関しては、ドライバーが望んでいるバランスに近づいた感触があって、割と良いところで走れました。でも反面トップスピードの伸びが以前に戻ってしまうという問題も出てきました。ラップタイムは良くなったのですが、ストレートのスピードが出ないと決勝レースではバトルができません。第10戦の予選で、原因を探るためにセッティングを振ってみました。結果、確かにスピードは上がりましたがS字でのアンダーステアが出てしまい、Q1で敗退することになりました。レースに向けてはスピードが残った状態を維持しつつレース後半にタイヤがタレないように考えたセットにしました。グリッドについた段階で福住選手は「セットはこのままでいいです」と言っていました。ただ本当に良かったかどうかを確認できないままレースが終わってしまいました。今季一番良いスタートを切ってドライバーとしてはもっと前にいきたいという気持ちになるでしょうし、前が開けていたらそこへ行ってしまうもので、今回は個人的にはドライバーを責める気にはなれません。シーズンを通して考えると、基本的には前進してきましたが、まだまだチームとしては課題が多いと感じました。



					
					
					
					

レース結果

【第9戦】

Pos	No	Driver	Team	Time
1	15	笹原右京	TEAM MUGEN	53'00.126
2	1	野尻智紀	TEAM MUGEN	53'12.715
3	53	佐藤蓮	TEAM GOH	53'14.338
4	65	大湯 都史樹	TCS NAKAJIMA RACING	53'19.764
5	37	宮田莉朋	Kuo VANTELIN TEAM TOM'S	53'20.121
6	19	関口雄飛	carenex TEAM IMPUL	53'21.332
7	5	牧野任祐	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	53'23.277
8	38	坪井翔	P.MU/CERUMO・INGING	53'26.067
9	20	平川亮	carenex TEAM IMPUL	53'26.549
10	39	阪口晴南	P.MU/CERUMO・INGING	53'27.757
11	64	山本尚貴	TCS NAKAJIMA RACING	53'29.661
12	55	三宅淳詞	TEAM GOH	53'33.570
13	6	大津弘樹	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	53'35.769
14	3	山下健太	KONDO RACING	53'42.369
15	12	福住仁嶺	ThreeBond DragoCORSE	53'44.611
16	4	サッシャ・フェネストラズ	KONDO RACING	53'44.977
17	50	松下信治	B-Max Racing Team	53'46.815
18	7	小林可夢偉	KCMG	53'48.826
19	14	大嶋和也	docomo business ROOKIE	53'55.263
20	18	国本雄資	KCMG	53'57.907
21	36	ジュリアーノ・アレジ	Kuo VANTELIN TEAM TOM'S	53'58.678



レース結果

【第10戦】

Pos	No	Driver	Team	Time
1	1	野尻智紀	TEAM MUGEN	1:01'20.630
2	6	大津弘樹	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	1:01'27.487
3	37	宮田莉朋	Kuo VANTELIN TEAM TOM'S	1:01'28.630
4	4	サッシャ・フェネストラズ	KONDO RACING	1:01'31.179
5	20	平川亮	carenex TEAM IMPUL	1:01'34.492
6	64	山本尚貴	TCS NAKAJIMA RACING	1:01'35.433
7	65	大湯 都史樹	TCS NAKAJIMA RACING	1:01'39.337
8	55	三宅淳詞	TEAM GOH	1:01'52.583
9	5	牧野任祐	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	1:01'53.429
10	7	小林可夢偉	KCMG	1:01'53.647
11	19	関口雄飛	carenex TEAM IMPUL	1:01'55.122
12	38	坪井翔	P.MU/CERUMO・INGING	1:02'00.363
13	3	山下健太	KONDO RACING	1:02'01.294
14	39	阪口晴南	P.MU/CERUMO・INGING	1:02'01.484
15	14	大嶋和也	docomo business ROOKIE	1:02'02.484
16	15	笹原右京	TEAM MUGEN	1:02'03.105
17	36	ジュリアーノ・アレジ	Kuo VANTELIN TEAM TOM'S	1:02'04.170
18	18	国本雄資	KCMG	1:02'08.550
19	53	佐藤蓮	TEAM GOH	1:02'26.980
DNF	50	松下信治	B-Max Racing Team	—
DNF	12	福住仁嶺	ThreeBond DragoCORSE	—



Drivers Ranking

順位	ドライバー	合計	Rd.1	Rd.2	Rd.3	Rd.4	Rd.5	Rd.6	Rd.7	Rd.8	Rd.9	Rd.10
			富士	富士	鈴鹿	AP	SUGO	富士	もてぎ	もてぎ	鈴鹿	鈴鹿
1	野尻智紀	154	15	3+20	3+15	3+8	3+11	1+11	11	1+8	3+15	3+20
2	サッシャ・フェネストラズ	89	11		1+8	15	2+20		2+15	2+5		8
3	平川亮	87	1+20	15	4	20	4			15	2	6
4	牧野任祐	61	5		11	1+5	8	6	8	11	4	2
5	笹原右京	57	3(QF)	1+1		4	1	20	4	3	20	
6	宮田莉朋	64	6	2+11		2+6	5	8	3		2+6	2+11
7	関口雄飛	43	8	5				3(QF)	2	20	5	
8	大湯 都史樹	43	4				15	1	1(QF)	3+6	1+8	4
9	坪井翔	30	3					2+5	6	1	3	
10	山本尚貴	32			2			2	3+20			5
⋮												
19	福住仁嶺	3	—	—	—	—	3	—	—	—	—	—

*表中ポイント数字の左側：予選ポイント 右側：決勝ポイント

Team Ranking

順位	チーム	合計	Rd.1	Rd.2	Rd.3	Rd.4	Rd.5	Rd.6	Rd.7	Rd.8	Rd.9	Rd.10
			富士	鈴鹿	鈴鹿	AP	SUGO	富士	もてぎ	もてぎ	鈴鹿	鈴鹿
1	TEAM MUGEN	187	15	21	15	12	12	31	15	11	35	20
2	carenex TEAM IMPUL	126	28	20	4	20	4		2	35	7	6
3	KONDO RACING	99	11	8	8	15	20	4	20	5		8
4	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	91	5	4	14	7	14	6	9	11	4	17
5	TCS NAKAJIMA RACING	67	4		2		15	3	20	6	8	9
6	Kuo VANTELIN TEAM TOM'S	59	6	14		6	5	8	3		6	11
7	TEAM GOH	44	3	6	1	11		5		4	11	3
8	PMU/CERUMO・INGING	34	3			3		15	6	3	4	
9	B-Max Racing Team	21			20	1						
10	KCMG	19		2	11		2	3				1
11	ThreeBond Drago CORSE	3	—	—	—	—	3	—	—	—	—	—

